

インターネットを悪用した人権侵害（学級活動）

1 題材名 教材名

題材名 みんなが笑顔で楽しく過ごすために

(2)ーイ よりよい人間関係の育成

教材名 「たった一言のちがいが・・・」

(NHK for school スマホ・リアル・ストーリー)

2 指導の立場

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領 内容(2)イ「学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったり生活すること。」をもとに設定した。先の見通せない現代社会においては、多様な他者と互いのよさを生かしながら、将来を切り拓いていく力が求められている。そのため、自他の個性を理解して尊重していくことはとても大切である。このような時代の中で、岐阜市は 12 の人権課題を掲げ、解消に向けて市全体を通して取り組んでいる。そして、子どもたち及び教師の人権感覚を養うために、これらの人権課題についての事例を直接扱い、課題解決について考えていくことが求められている。

本時では 12 の人権課題のうち、「インターネット上の人権侵害」を取り上げる。インターネットは便利な反面、誰でも簡単に書き込みをすることができる。また、複製や画像等の合成、編集も簡単にできる。そのため、今後気付かないところで加害者になってしまい、悲しい思いをする子を生む可能性がある。実際に学校生活で起きた事例を視聴し、主人公の LINE の使い方の問題点やその解決策を考えるを通して、相手の気持ちを思いやりたり推し量ったりしながらメッセージを送信することの大切さに気付く、クラスの仲間を大切にしながら情報機器を活用しようとする態度を育みたい。

(2) 子どもの実態

本学級の児童 27 人のうち、14 人が自分で自由に使えるスマートフォンを持っている。また、LINE やインスタグラム等の SNS を利用している児童は 22 人と、学級の 8 割の児童が SNS を利用している。また、SNS を利用してトラブルに会ったことのある児童は 5 人いた。嫌な言葉を送り合ったり、無断で写真をインターネット上にアップしたりするなど、これまでにいくつか SNS を使ったトラブルが起きている。

また、人間関係の問題が起きているとき、問題に気付かず傍観的になる子や、相手の立場になって考えることの難しい子もいる。

そのため、事例をもとにしながら、自分だったらどうするのか、どうするとみんなが納得して仲よく笑顔になることができるのかを考えたり、考えを交流し合ったりして、相手を尊重しながら生活していこうとする態度を育みたい。

そして、相手の人権を尊重しながら学校生活を送ることができるようになりたい。

(3) 本時の人権感覚を高める指導について

【事前指導】

人権とは、人が生まれながらにして持つ権利であり、だれもが笑顔で幸せになるために尊重し合うことを理解する。そして、よりよい人間関係を築くためには温かい言葉を使って話したり、相手のよさを認めたりすることの大切さを実感できるようにする。

【気付く過程】（認識力を高める場）

見つめ直すために気付く視点：自己中心性、異質感

映像から、どんな問題があったか発問することで、仲間はずれをしていることが問題であることに気付かせる。さらに、問題場面を繰り返し見せることで、仲間外れの原因が主人公の送った LINE のメッセージの言い回しであることや、楽しくなさそうなスタンプを使ったことであることに気付けるようにする。

【見つめ直す過程】（自己啓発力を高める場）

まず、「もしあなたがこのグループ LINE に参加していたらどうしていたか。」と問い、子どもたちの思いを表出させる。そして、主人公のために問題点を優しく教える立場なのか、傍観的な立場なのか、あいかのことを思って主人公を攻める立場なのかを確かめる。その上で、仲間外れにされた主人公の気持ちを考えたり、仲間の考えを聴いたりしながら、自分の考えを深め、問題の解決策を考えるようにする。

【行動化につなぐ過程】（行動意欲・行動力を高める場）

事例について解決策を考えたと、学級でこのような問題が起きないようにするために、あなたはどんなことに気を付けて SNS を使いますか。」と問い、今後の学校生活で気を付けていきたいことを考えることで、相手の人権を尊重して行動しようとする態度を育む。

【事後指導】

朝や帰りの会等で自己決定したことができているかどうかを振り返る。また、仲間の人権を大切にしている仲間をその場や帰りの会などで価値付けたり、勇気付けたりして、クラスみんなが笑顔になる雰囲気をつくる。

3 本時のねらい

実話の映像教材から主人公の問題点に気づき、LINEにおけるトラブルの回避策を考え、実生活に生かすことができるようにする。

4 本時の展開

過程	学習活動 ◇教師の働きかけ・発問	指導上の留意点
気付く	1 LINEについて交流し合う。 ◇LINEを使ったことがありますか。使っていてよかったことや困ったことはありますか。 ・いつでも仲間とつながれて楽しい。 ・嫌な言葉が送られてくることがある。 2 映像資料のシーン2～6を視聴し、問題の中身を確認し合う。 ◇どんな問題がありましたか。 ・Aさんがかわいそう。いじめられている。 ・仲間外れにされて、悪口を言われている。 ・Aさんを助ける仲間がいない。 ◇どうしてりんさんは避けられるようになったのだろう。 ・LINEで悪口を言っていたから。 ・LINEのメッセージがよくなかったから。 ・スタンプもよくなかったから。	・温かい雰囲気です学習に臨んだりできる よう、他の人の回答に対して共感的に受け止めるように声をかけ、肯定的でない言動には、毅然とした対応をする。
	みんなが笑顔で楽しく過ごすためには、どうすればよかったのだろう。	認識力を高める手立て 映像から、異質感のある仲間外れをしていることが問題であることに気付かせる。さらに、問題場面を繰り返し見せることで、仲間外れの原因が、主人公が良いと思って送ったLINEのメッセージやスタンプであることに気付かせる。(主人公の自己中心性・異質感)
見つめ直す	3 どうするとよかったか解決策を考える。 ◇もしあなたがこのグループLINEに参加していたら、どうしていたと思いますか。 ・あいかさんを傷つけているので、りんさんにひどいと文句を言ったと思う。 ・ほかの子と同じく既読スルーををすると思う。 ・りんさんに、どうしてそんなメッセージを送ったのか理由を聞いた り、いけないと思うことを教えたりすると思う。 ◇仲間外れにされたりりんさんは、どんな気持ちですか。 ・なんでさけられるのだろう。 ・悲しい。つらい。 ・もうやめてほしい。一緒に帰りたい ◇りんさん(主人公)が笑顔で生活するためには、どうするとよかっただろう。 ・「楽しくなくない」というあいまいな言葉ではなく、「楽しかった」と、みんながわかる言葉を使えばよかった。 ・好きなスタンプを使うのではなく、それを見る相手の気持ちを考えればよかった。 ・送る前に相手のことを考えたメッセージになっているか、確かめればよかった。	・「どうしてそうしようと思ったの?」と問い返すことで自分事として問題をとらえられるようにする。 ・登場人物の気持ちを考えた行動をしようと考えている児童を価値付ける。 ・相手を傷つけるような言動を傍観したりせず、相手の気持ちに寄り添って行動することの大切さを理解するように促す。
行動化につなぐ	4 事例のような問題が起きないように、学級の中で自分自身が守っていきたいことを決め、宣言する。 ◇学級でこのような問題が起きないようにするために、あなたはどんなことに気を付けてSNSを使いますか。 ・これからは相手のことを考えたメッセージを送る。 ・メッセージを送る前に、そのメッセージでいいか考える。 ・困っている仲間に進んで声をかけたい。 ・SNSではなくても相手のことを考えて行動する。	自己啓発力を高める手立て 自分事として問題を捉えた上でりんさんの気持ちや解決策を考えることで、相手のことを考えた解決策を考えることができるようにする。
	5 時間があれば動画のシーン 7 を見て確かめる。なければ別の時間に視聴する。	行動力を高める手立て 事例のような問題が起きないようにするためにこれからの生活で気を付けていくことを決め、仲間に宣言することで、行動化への意欲を高めることができるようにする。 ・「～しない。」ではなく、「～する」と、前向きな内容で書くようにする。
		評価規準 【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】 学級の仲間みんなが楽しく過ごすことができるよう、自己決定したことを守っていること。